

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

新春名刺交換会



2016年1月27日(水)、毎年恒例となる新春名刺交換会が日比谷松本楼にて開催されました。

18時からの第1部講演会では、現在、和田会長のオービックビジネスコンサルタントで、社外取締役をされている、伊東千秋様に「知能ロボット最前線 ～シリコンバレーとドイツ～」と題して1時間にわたりご講演をしていただきました。最先端のAI技術について、昨今報道されるような事例や言葉を織り交ぜながら、非常にわかりやすく、盛りだくさんの内容を、時間いっぱいご講演いただき、会員一同、熱心に聞き入っておりました。

続く19時より第2部の新春名刺交換会がスタートいたしました。会員99名に加えて、来賓25名、ゲスト5名をお迎えし、総勢129名の参加となりました。

湯浅総務委員長の司会の下、まず、和田成史立教経済人クラブ会長より開会のご挨拶を頂きました。

本日の講師である伊東先生は仕事で大変お世話になっており、同業でもあることから、お話を聴いて、更なるパワーが沸いてきた。マイクロソフトと係わりがあることもあるが、スティーブジョブズが、大型汎用機(PC)を生み出した点、スマートフォン(I Phone)を発売して集中と分散の融合を作った点で、尊敬している。仮想化、クラウド環境

といった考え方は、昨今のインダストリー4.0、IOT、AIを生み出したきっかけとなっており、我々のビジネスも新たな時代に入ってきたと感じている。経済界特に、IT業界では、立教は少数派となってしまうが、その中でもチームワークを発揮して大いに盛り上げていくよう協力をお願いしたいと、ご挨拶いただきました。

次に、昨年11月に旭日小綬章を受章された、当クラブ会員の、吉羽真治氏(S40法 吉羽真治法律事務所所長)に和田会長より記念の花束の贈呈を行いました。

続いて、ご来賓を代表して、立教大学統括副総長 白石典義様よりご挨拶を頂きました。

大学と、立教経済人クラブを始め、校友会とここ数年交流が盛んに行われている。大学では、2024年創立150周年を迎えるにあたり、グローバル24、スーパーグローバル大学構想など国際化を進めており、学内では英語で会話をしている姿が良く見受けられるようになってきた。昨年には、ビジョン24を次世代の立教学院を支える職員を中心に策定し、ウィリアムズ主教の言葉を借りて、リード ザ ウェイと題した。その一環として、立教ラーニングスタイルという新たな大学教育をスタートさせることになった。これまでは、150周年に向けて、目標立案が中心だったが、今後は、目標に向かって実施していく段階になった。

授業以外の体育会活動では、野球部のグラン

ドを、神宮球場仕様の人工芝に改修する工事を施工し、あとは優勝を待つのみとなった。

今後も、様々な面で経済人クラブをはじめ、卒業生とも連携をしていきたいとご挨拶されました。

引き続き、湯浅総務委員長よりご来賓のご紹介、新入会員の紹介と記念撮影を行い、乾杯へと移りました。

乾杯のご発声は、神谷昭男立教学院理事長が、経済界で活躍される皆様と過ごすこうした機会は、何か新しいことが出てくるのではと実感している。大学も様々な24という数字を掲げ、施策を実行しており、学院としてもサポートをしていきたいと考えており、その為には、どうしても皆様のご協力が必要です。また、インターンシップ等、教育面でもますますのサポートをお願いしますとご挨拶され、高らかに乾杯を行い、歓談となりました。

ローストビーフ、カレーライスなど松本楼の名物料理をはじめ、おいしい食事とお酒を頂きながら、様々な業種、年齢の垣根を越えて情報交換が活発に行われておりました。

最後に、戸井田副会長より、松本楼、立教大学、立教学院、立教経済人クラブ、参加者各位の健勝という5つの願いをこめて、小指から5本で行うユニークな中締めを一同で行い、閉会となりました。

一品川 高穂 H8済一

新春名刺交換会講演



伊東千秋氏 知能ロボット最前線 ～シリコンバレーとドイツ～

18年前、50歳の時にシリコンバレーに3年間赴任し、それ以降定点観測を続けている。
最近のテーマは、人工知能とロボット。どの程度、進化しているか継続的に調査している。

■ なぜ、世界中の企業がシリコンバレーに集まるか。

シリコンバレーでは、アップルが、CD販売をつぶしたように、顧客視点からビジネスモデルを変えようとしている。徹底的にICTを活用し大企業を破壊しようとする、破壊的イノベーションが起こっている。

現在の市場には、これ以上お金を払う余裕、時間を割く余裕がない。例えば、スマートフォン市場がゲーム業界から時間を奪ったように、新しく市場を開拓するのではなく、どこからか市場を奪っている。そうした意味で、新しい市場は無く、新しいビジネスを興すには誰かをやっつけるしかない。

売上1000億円以上の大企業は4000社あり、5年連続で5%以上売上が伸びている会社は、わずか8%しかない。シリコンバレーのベンチャー企業は、そうした足が遅い大企業を狙っている。しかし、大企業はそうした破壊者たちと手を組んで競合をやっつけ、自らが破壊される前に手を組む戦略をとっている。だから、ベンチャーに狙われている業種(金融、自動車、通信など)の全世界の大企業が今、シリコンバレーに集まって、どうやって新しい産業を興すか、どこをやっつけるかを狙っている。

■ シリコンバレーがこれからやろうとしていること(BIT(仮想)からATOM(リアルインダストリー)へ)

シリコンバレーでは、今、人工知能(AI)+ロボティクスが結びついて熱くなっている。リバモア地区に新たに、ロボットコンソーシアムができた。3年前までは、シリコンバレーはロボットには投資しなかった。(日本企業をはじめとした先行企業の技術に追いつけないと考えていた)しかし、AIを内蔵したロボットであれば、既存企業に勝てる可能性があると考えている。

AIが3年前に突然進化した。30年以上の間、伸びなかったものが、2012年に急に伸びた。まさに、AIにビックバンが起きた。更に、ビックデータとAIが一緒になると目覚ましい発展を遂げるようになる。今までできなかったことも、誰かができるようになると飛躍的に広がるようになり、その結果、人工知能を誰もが使えるような時代となっている。

シリコンバレーでは、ベンチャー企業で成功して、高い金額で企業を売却し、それを元手に、ベンチャーキャピタリストとして、企業に投資して育てたり、若い起業家たちを教育することが盛んに行われており、そうした活動はリスペクトされている。

そうした中で出てきたのが、ファーストオピニオンというアプリ(アメリカは医療費が高い。医者に行く前に簡単な診断をしてくれるソフト)の会社や、NY版のぐるなびのようなレストラン案内アプリ(掲載したレストランの混雑状況

を、監視カメラ映像の画像認識を利用してAIが分析し、美味しくて空いているお店を案内する仕組み)を開発した会社などで、昨年シリコンバレーに行った時では、AIの技術を使った633もの色々なジャンルの会社が起業しており、たった3年でAIは大きく広がった。

その他にも、最近では、ネットフリックスが注目されている。これまでは、DVDの映画を2時間掛けてDVDプレーヤーで見ていたが、今の若い世代は、それを30分で見てしまう。なぜか?リアルタイムで動画配信をしているので、時事刻々と面白いところの情報がアップされるため、面白くないところはスキップできるため。こうしたことを考えると、もはや、テレビの時代ではなく、動画はもの凄いマーケティングツールとなっていくと考えられている。また、女性向け衣料品のネット販売会社は、返品率50%以上と苦戦していたが、AIを使って返品されたものを分析して、似合わないものをユーザーに見せないようにしたら返品率が10%以下になった会社や、オンラインニュース配信も様々な記事を配信して最も反響のあった記事と、写真をAIが分析し、編集をして配信するような会社が注目を集めている。更に、新しい知能を作る研究や、AIを持った手術用ロボットの研究なども進められている。

■ ものづくりへの回帰

AIだけ開発していても実際にリアルな物も作らなければならない。そういう意味では、アメリカはものづくりに回帰している。しかし、これまでのような工場の中で作るやり方が大きく変わりつつある。今のものづくりの現場は、設計者が3Dで設計を行い、同じ場所にある、3Dプリンタや、CADが設備してあるマニファクチャーセンターですぐに形にすることができる時代となっている。設計者=製造者になりつつあり、そうしたベンチャー企業の試作品を見せる展示場が沢山あり、ものづくりが盛んに行われている。

投資家たちは、投資をするだけでなく、自分たちでベンチャーを育てるようになってきた。タクシーアプリの、ウーバのように、創業時に比べて時価総額が何倍にもなる事例もあり、投資家は投資するだけでなく育てるほうが儲かると考えている。日本にも、そういった流れができつつあるが、シリコンバレーでは、更に、さらに草の根のような、まだ名も無いベンチャーの若者が自然に集まり、語り合うような場がいくつもあり、そうしたか中から新しい発想が出てくる環境にある。

こうしてみると、ITの考え方が変わってくるのではない。既に成熟産業といわれているIT業界だが、まだまだ進化していくと考えている。シンギュラリティ(数学の言葉で特異点という意味)つまり、連続性から飛んでしまう、外れてしまうといった、特異点であるコンピューターが人間を超えてしまう可能性がある信じら

れている。

2005年に、コンピューターが人間を超える社会はどうかを予測する研究があり、その中では、AIのビックバンは起きていない段階でも2045年ごろにコンピューターが人間を超えると予測していた。しかし、AIビックバンが2012年に起きてしまった現代では、2020年ごろにはそうした時代になる可能性も十分ありえると考えており、準備をしておかなければならない。

■ インダストリー4.0

ドイツ語では、インダストリー4.0といっており、ドイツ国内をよくするような発想からスタートしている。ドイツ製造業の強化には、一つは、ドイツの輸出の70%を支えている中小企業の強化、二つ目は、ものづくりだけでなく、作った後のオペレーション&メンテナンスの強化、そして三つ目は、知能ロボットの発展が大きな役割を持っている。

例えば、ドイツの自動車産業。今後は、自動運転の前段階として、コネクティッドドライブ、つまり、車同士の会話を全車種に搭載しようとしている。人間が運転する車は、交差点等で人間同士がアイコンタクトなどで話しているが、それを車同士で行わせようとしている。ダイムラーでは、人間よりも安全な技術は既に完成しているが、今の世の中には、政治的な背景や、社会的背景から受け入れにくい状況。現状では、運転者のアシスト技術から始まり、いずれ自動運転になり、自動車やトラックなどの運転者が不要になると考えている。こうしたように、知能ロボットが発展すると、雇用を奪い失業率が上昇していく。

■ 日本は今後どうなるのか

日本は、人手不足の状態である。それは、失われた20年で移民を受け入れなかったため、労働生産人口が増えず働く人がいなくて成長できなかった。欧米は移民を受け入れ働く人を確保したから成長をしたが、現在はその反動が起きている。欧米の場合は、知能ロボットが発展すると労働者の職が失われていくが、日本は、政府の規制があるような企業のホワイトカラーの職が失われる可能性がある。医者、弁護士、金融トレーダーなどが危ないのではない。知能ロボットは雇用を奪い、現在の仕事の70%はなくなるであろうと予測されている。

コンピューターが人間を超えるような時代の教育では、小学生の時に数学とサイエンスを教えて、頭に汗をかいて考える訓練や、教育が必要になっていくであろう。大人になって未曾有な事態が起きたときに対処するためにも、コンピューターを使えるようにするだけの教育ではなく、ロンドンの小学校のように、プログラミングを通して考えることを教えていく必要がある。

—品川 高穂 H8済—

Christmas Party 2015

2015年12月8日(火)

ホテルニューオータニ

今年も恒例の2015クリスマスパーティーがホテルニューオータニで開催されました。今回は会員とゲストにお子様も含めて総勢51名のご参加をいただきました。

定刻の19時に、司会の二瓶氏(H10法)より開宴が宣言されスタートしました。開宴にあたり、和田会長のご挨拶では、イギリスとアメリカでは同じ西洋文化といってもクリスマスの過ごし方に違いがあるお話しをご披露いただきました。その後、守屋財務委員長による聖書朗読、続いて、立教大学チャプレン宮崎光司祭により厳かに祝福と感謝のお祈りが捧げられました。そして、伊藤副会長による乾杯の後、いよいよ食事・歓談の時間へ。今年もおいしいお食事を頂きつつ、参加された皆さんは一年を振り返っております。

歓談中には、Mr.Chris氏によるテーブルマジックが披露され、間近で見るマジックショーに各テーブル大変盛り上がりしました。最後は、恒例のビンゴ大会へ。女性陣による司会の下、参加者皆様に持ち寄られた豪華な景品が多く、こちらも大変盛り上がりしました。

19時より始まったクリスマスパーティーもあっという間に時間が経過し、最後は、梅田副会長による中締めにより、名残惜しいまま終了となりました。

—飯泉 斉 H10法—



連載

グローバルリーダーへの道 (特別号)

TOEICのスコア=グローバル人材、本当？

グローバル人材の人選を図る際、“TOEICのスコア800点以上が第一条件”というような馬鹿げた企業もまだありますね。これはグローバル・コミュニケーション上、手段として語学力が必要なのです。プロの通訳の力を借りて、一心同体で臨むことができれば事足りるのです。

大阪に本社があるダイキンは業務用エアコンを主力商品としておりますが、いち早く海外を生産基地ではなく、新興マーケットという捉え方をして、グローバル企業へと変貌しました。実は社内では語学力が長けている人はそんなに多くはありません。プロの通訳を最大限活用された成功事例と言えましょう。

以上、問題提起をした上で、小職が考えるグローバル人材を示したいと思います。以下の8つの能力で構成されています。

まず、根幹となる能力が1.Visionです。10年後、5年後の理想像や目的地が明確になっているかどうかです。更に、具体的なストレッチしたGoal(ジャンプして指先がぎりぎり手が届く目

標)がグローバルレベルになっているかどうかです。2つ目はProfessionality(卓越した専門技能)を有しているかどうかです。ビジョン(志の高さと覚悟)に従い、そこに辿り着くためのアクションプランが明確になり、行動をし続けることで能力は開発されていきます。以上の2つが揃って、“プロフェッショナル”の領域です。

プロ野球に例えると、ここまで辿り着いた超一流の選手だけが「グローバル行き」という切符が得られます。あとは本人の選択です。海外で生きていくのか、国内で生きていくのか、という選択です。アスリートの場合、体で表現するので、コミュニケーション上大きな問題は生じませんが、ビジネスにおいてはきちんとコミュニケーションを取らなければなりません。

以下の3つが必要です。まずは、Intercultural competency(異文化適応能力)、次に、Logical thinking(論理的思考能力)、最後に、Language skills(語学力)です。構造的には一番表層に位置するのが語学力であり、それを第一条件にすることが本末転倒なのです。以上の5つの能力が中核から表面へきちんと備われば

“グローバルプレイヤー”です。

グローバルチームを統率するためのリーダーとして必要な能力は次の2つです。以前のIBMの全世界従業員調査では、日本はLeadership(統率力)とDecision making(意思決定力)の2項目がワーストであり、ここは日本人として開発すべき能力と認識すべきでしょう。

最後に、グローバルトップとして必要な能力がImagination(想像力)です。過去、現在、未来という軸で世界を捉え、技術の動向等を踏まえ、新しい世界、ライフスタイルを変えるほどのインパクトを与えることができる大局観や先見性を持っているかが問われることでしょう。アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズ氏が象徴的なリーダーです。

以上、日本経済新聞の依頼で開発した弊社のグローバル人材モデルを基に開発した「日経キャリアNET グローバル力診断」が今春リリースされました。グローバル力を10分で知りたい方は以下までアクセス下さい。

<https://career.nikkei.co.jp/contents/global/>

—藤田 聡 S62営—

おカネ学 ～知っていると思える パーソナル・ファイナンス～

投信乗換え2年毎 運用▲3%
運用編 2016 April

投資信託に投資をする前に知っておくべきことを今回はご紹介いたします。

- 投信平均保有年数 2.0年
- 銀行の顧客は2～3年で乗換え売買が行われている
- 2年毎投信乗り換え 成果▲3%
- 評価基準7割が収益・販売額

2014年7月に金融庁は現状の銀行のあり方に警鐘鳴らした内容を発表しました。(※1)

しかしながらこの内容が一般的な投資家にはなじみが薄く、残念ながら知らない方がほとんどかと思われます。

・投信残高は伸びないが販売額は増加

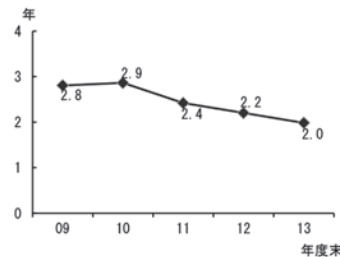
1998年に銀行による投資信託が解禁されました。銀行が預かる投資信託残高は伸び悩んでいます。しかし、投資信託販売に係る収益が増加する状況にあります。

・投信保有期間2年の意味は？

投資信託全体の保有期間の推移は年々短期化しています。2013年度は証券会社等を含む全体で約2.0

年、主要行等は約2.5年という事になっています。日本ではベストセラーの長期運用投信は育っていないとも言えます。

図表Ⅲ-3-8 投資信託全体の平均保有期間の推移



(注1) 購入した金融機関の業態は問わない(証券会社経由のものも含まれる。)
(注2) 対象は公募株式投資信託(公社債投信・私募投信は含まれない。)

(出典) 投資信託協会

金融庁レポートのコメントは「銀行の顧客において、総じて2～3年での乗換え売買が行われている傾向にあることが見受けられる」と指摘しています。

・投資した資産は▲3%

金融庁はこのレポートで2003年3月末から10年間に2年毎にその時々にも最も人気のあった投資信託に乗り換える売買を行った場合の収益状況についても試算データを公表しています。(販売手数料3.15%前提) その結果は投資による資産運用の成果は投資資産が

目減りする、マイナス3%という結果でした。100の資産が97になってしまいます。

・評価7割が収益・販売額

なぜ通常預金者が信頼している銀行等が、「投資信託の乗り換え売買による販売手数料により収益を稼ぐ」というスタイルになってしまったのでしょうか。金融庁アンケートでは、金融機関の業績評価の基準を「収益・販売額」、「預り資産残高」、「顧客基盤拡大」に分け、実際にどこの指標を重んじているかというところ、実に7割が「収益・販売額」に比重を置いているとの結果でした。今回の結論は

投資信託の乗換え売買目的の金融機関とは決別した運用スタイルを

という事が資産運用のコストを抑える上で極めて重要な事柄であると思います。

※1 「金融モニタリングレポート」2014年7月4日

金融庁より

—安東 隆司 H1社—

ご関心がございましたら下記まで

<http://ria-japan.co.jp/>

建学の精神をたづねて 築地居留地の歴史 日本の政府と居留地の微妙な関係

神保町シンクタンク 黒田裕治(78年3月 法学部卒)

2016年3月20日 春分の日 世界の豪華客船クイーンメリー2(以下QE2)は静かに横浜の大黒ふ頭へと接岸した。通常はベイブリッジをくぐっての大栈橋へ接岸するのだが、潮の満ち干の関係で今回はここに錨を下ろした。横浜市民はこの豪華な客人を大歓迎している。インバウンドの興隆はアウトバウンドと肩を並べるほどの数に急成長を遂げつつあり誠に喜ばしい限り(功罪は別の機会に)であるが、元祖インバウンドのゲートの一つは横浜港であることを忘れてはならない。日本の近代旅行業の始まりは横浜であったと言ったらびっくりされる人も多いだろうが、横浜港の営業所で寄港した外国人旅行客の国内宿泊手配、運送手配、観光手配を請け負ったのである。(現在の株式会社ジェイティービー(JTB)の前身であるジャパン・ツーリスト・ビューローが、外国人旅行の誘致・斡旋を目的に創立。神戸・下関・横浜・長崎に案内所を設置。～JTB HPより～)横浜からは我ら立教の大先輩が創立した あるいは現社長 箱根宮ノ下富士屋ホテルや日光金谷ホテルというリゾートホテルに多くの外国人を誘客し、明治新政府の国策である外貨獲得に大いに貢献した。

QE2(by wiki) 箱根 宮ノ下 富士屋ホテル

さて、横浜居留地と築地居留地の関係は前回に解説させていただいたが、なぜ歴史の舞台から居留地としての築地は忽然と消滅してしまったのだろうか?ほぼ同時期に存在し、当時最新鋭の鉄道で結ばれた横

浜と築地。商業の発展を担う横浜に対し、教育の発展に寄与したミッションスクール等の発祥の地となった築地。ともに日本の文明を大きく育んだこの地は日本の文化と西洋の文化が衝突する現場でもあったのだ。近代日本の「ものの始まり」や「事の始まり」の多くは横浜であり、一方日本国(最初は江戸幕府で後半は新生明治政府)の事情により9年遅れて開かれた築地でその「文明の華」を咲かせていったが、1923年9月1日の関東大震災で両地は壊滅的被害を被ったのであった。現在その居留地の発展(面影)が大きく違っているのは、復興の鍵を持っていた横浜と持たない築地だったのではないだろうか。すなわち復興材料となる資材等の運搬が可能な港湾設備を持つ前者に復活の道が与えられたのだ。しかしながら、築地が担ってきた「日本の教育の進化」は消滅していない。いや、むしろ我が母校を始め、14大学はそれぞれの発展をしながら日本の近代教育を大きく担っているのだ。ではなぜ築地を離れたのであろうか?それはその頃すでに「居留地」に外国人を閉じ込めなければならない事情が解消したからに他ならない。それは、攘夷を振りかざして外国人を排斥する人々からの防御(警備保護)の不要な「近代社会」の到来であり、居留地が1899年(明治32年)条約改正により、外国人が内地に自由に住めることになっていたため、各教育機関は築地の崩壊を機にそれぞれの適地へと移り住んで行った。立教の移転はこれより前の1894年(明治27年)東京地震で被害を被ってから、中

プロフィール

1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ

立教高等学校 立教大学を経て

近畿日本ツーリスト株式会社に勤務

2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、

現 一般社団法人神保町アイデアタンクを主宰

学校は再度築地に建立したが 大学は1910年(明治43年)以降間もなく、当時のタッカー主教により新キャンパス用地として池袋に広大な土地の購入が決定されていた。

今回の結論:日本の政府と居留地の微妙な関係「築地」という租界の造成は、徳川幕府が幕末の国内情勢と世界情勢に翻弄され追い詰められた中での苦渋の決断で生まれた折衷案であった。そんな事情の中で横浜居留地とは別の進化が起こり、幕府にも新政府にも近いという好立地であったので時の有力者(幕末では倒幕派だった輩も公武合体派だった輩も、新政府では外国の先進技術や文明を学ぶ政府重鎮や学生、文化人たちが多く訪ねてきたに相違ない。いわば世界文明というパトロンに逢うためのサロンとして機能していたのであろう。ただし、目先の商売を目論んでいる事業家はおそらく横浜居留地へと足を運び、日本国家の将来を考え、ビジョンを構築する篤志家や役人、教育者は築地に足繁く通ったことは想像に難くない。築地という地名からもわかるようにここは1657年(明暦3年)の大火で焼け出された廃材を埋め立ててできた軟地である。そのふわふわしたところで日本の形が作られていったのである。まるで日本神話の国生みの場面のように大海に垂らした一雫の上の出来事のように。

参考 築地居留地Vol.1-4

AERAムック 立教大学 朝日新聞出版

立教大学経済学部のカリカ教育の取り組み

2015年度 経済学部正課インターンシップ報告

カリカ教育運営委員会座長 遠山恭司

経済学部が「インターンシップ」を通年4単位の正課科目として設置したのは2003年度で、本年度で13年目を迎えました。当時、正課として「インターンシップ」を開講する経済学部は全国的に見てもほとんど存在せず、その意味では、本学経済学部の取り組みは先駆的な試みでした。

近年、多くの大学や企業で積極的に取り組まれているインターンシップの多くは、その直線的な延長線上に「就職」が設定され、会社見学とグループワークを1～5日で実施するものが多いようです。また、参加する学生の意図も、「就活」でのより直截的なメリットを意識しています。

しかし、本学経済学部の「インターンシップ」は、開講当初よりそうした直截的な「就職」支援を目的にしてきませんでした。むしろ、インターンシップを通じて、これまで大学で学んだ知識や修得した能力を就業体験の企業活動の現場で自ら検証し、自分自身を客観的に再認識すること。そのうえで足りない知識や能力は何か、社会性や人間としての常識は備わっているか、そうした反省の上に立って、大学で目的意識を明確にした学習や生活をおくるための契機を与えること。これらが科目開講に当たって、経済学部が掲げた目標であり、13年を経た現在でも変わっていません。

その場しのぎの「就活」スキルを与えることではな

く、そうした自己省察の契機を学生に与えることこそが、長い人生を主体的に生き得る力を学生に付けさせる方法であり、より本質的な「就職」支援とわれわれは考えています。

本学の「インターンシップ」は立教経済人クラブの加盟企業を中心に受け入れていただき、実際の業務を2週間にわたって体験する「インターンシップ」となっています。2015年度は5名の受講生が、E.OCT(株)、オリエンタル酵母工業(株)、(株)三栄コーポレーション、日興ビジネスシステムズ(株)、(株)フジタで充実した研修を受けて参りました。

より良い社会を創り出すために、主体的なキャリア意識の形成を学生に促し、社会常識を備えた感性豊かな人材を社会に送り出すこと、これは大学に課せられた責務です。この責務を果たすために、経済学部が取り組む教育プログラムの一つが、この「インターンシップ」科目と位置づけられています。今後とも、立教経済人クラブにおかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆学生の声①

経済学科3年 堅石裕希

派遣先:(株)フジタ

働くということは、楽しいことも辛いことも両方あるということが実感できました。楽しいこととして

は、自分の行う仕事
が人々の役に立つ
瞬間があげられま
す。辛いことでは朝
から夜まで時間を
拘束されて働かな
くはないという
ことです。また、各
部署を回ったこと
で、建設業だけではなく、不動産業や金融業にも興
味が湧き、視野が広がりました。



◆学生の声②

経済政策学科2年 阪上木乃実

派遣先:(株)E.OCT

主に3つにまとめ
ます。ひとつは、作
業を作業としない、
ということです。作
業ではなく考えなが
ら「仕事」をするこ
とを学びました。二
つ目は、向上心を忘
れないこと。現状に
満足せず、さらに上を目指す空間にすることができ
ました。三つ目は、共有することの意味です。自分1
人ではなく、全員の体験を共有する環境とそのこと
の効果に感動しました。



経済学部 在学生&卒業生交流会「赤レンガセッション」

経済学部主催の、卒業生と学生の創発を目指す交流イベントとして、2014年度から年2回(夏・冬)開催されているのが『経済学部 在学生&卒業生交流会 赤レンガセッション』です。今まで3回実施され、多くの学生と20代から70代のOB・OGの方々が参加され、新たなスタイルの交流が育まれています。

◆「赤レンガセッション」開催目的と近況

学部では、「経済学部キャリア教育改革プログラム」を推進し、他学部にも先駆けてキャリア教育の一層の充実に取り組んでいます。その中であらためて「同窓連携」の重要性が認識されています。ご存じのように「校友会」「経済人クラブ」をはじめとして卒業生間のネットワーク化が図られていますが、学部の学生と卒業生の皆様とが直接話し、交流を深める機会は、ゼミやサークル、就職活動など、一定の範囲にとどまっておりました。

「赤レンガセッション」は、多くの卒業生の方々と学生とのコミュニティで紡がれるものの可能性を活かしたく、同窓連携コミュニティの交流イベントとして開催しています。学生は多世代の社会人と交流することでキャリアの考えを深め、人間力を高める上で大きな意義を感じており、一方、卒業生の方々も自らの経験を語るだけでなく、若い世代とのわけ隔てない対話することで様々な気づきを得られることから、リピート参加される方も増えています。また、赤

レンガセッションをきっかけに卒業生間の新たな人脈も形成され、学部プログラムへご支援いただく例もでてきています。さらには昨年、同窓連携コミュニティ「四丁会(よんちょうかい)」が発足し、学生中心の執行部が赤レンガセッションの企画運営を担うまでに成長しました。

◆「第3回赤レンガセッション(2015年12月8日)」開催レポート

クリスマスイルミネーションの美しいキャンパスにて「第3回 赤レンガセッション」が開催されました。今回のテーマは「リーダーシップ力×コミュニケーション力」。リーダーシップとは? 自分にとってのリーダー像とは? 学生&卒業生の多世代グループで、フラットで真剣な対話を深めていきます。ゲストにレゴ®シリアスプレイ®メソッド公認ファシリテーターをお迎えし、レゴ®ブロックを自由に組み立てる、普段とは異なる刺激的なワークショップによって、参加者それぞれの考えが共鳴して大きな気づきと認識を

持つ経験を一同で共有しました。大勢の方々が二次会にも引き続き参加されるなど、参加者皆様の笑顔があふれる盛会となりました。

◆2016年度「赤レンガセッション」開催のお知らせ

お一人でご参加される方がほとんどです。立教経済人クラブの皆様、どうぞお気軽にお越しください。

・夏の回(第4回) 7月 8日(金) 18時半開始

・冬の回(第5回)12月17日(土) 15時開始

場所: 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館

多目的ホール3階(定員80名)

テーマ等内容は四丁会執行部中心に鋭意企画中です。詳細はあらためてご案内させていただきます。

お問合せ:

立教経済キャリア教育サイト「STORY」

<https://rikkyo-ecocareer.jp/>

Facebook:「立教大学経済学部キャリア教育」ページ

Twitter : @rikkyoecocareer

保育園落ちた・・・のこと

「保育園落ちた。日本死ね!」というインターネット上の書き込みが話題となり、国会でも取り上げられています。「もっと保育園を作れ!」という声がここにきてますます高まっていますが、まとまった土地、建物、その後の運営にかかる費用は莫大(もちろん皆さんの税金からです)ですから、認可保育園はそう簡単に作れません。また待機児童問題は、日本全体の問題ではなく、大都市圏、もっと言えば大都市通勤圏内の問題です。ですから待機児童とは言っても、その市全体を見れば定員に余裕があるのに、駅に近い保育園に申込者が殺到するためにそれが待機児童数としてカウントされるということもあります。待機児童の問題は、保育園の数だけの問題ではありません。

私は東京近郊のF市で幼稚園と保育園の園長をしています。F市には、現在千人を超える保育園の待機児童がいます。これは東京のS区に次いで

日本でワースト2位の数です。人口の社会増が著しいF市では近年これまでの常識では考えられない程の数の保育園が新設されています。しかし一向に待機児童が減る気配はありません。また保育士の定数が足りないから子どもを定員まで預かれないという事態も起きています。「給与を改善すれば保育士の仕事に就く人の数が増えるだろう」という意見もありますが、F市では公務員である公立保育園の保育士の給与に近づけるべく私立保育園へも様々な改善の施策が取られています。ですから大切ことは、本当に必要な人に保育園の入園が許可されているかということなのです。平成27年度の制度改正によりF市では月に保護者が64時間以上(平成26年度までは月30時間!でした)働いていると平日8時間から11時間(もちろん朝夕の延長保育もあります)の保育が受けられるようになりました。計算してみると週に16時間、一日3時間程仕事をすると保育園に入

園して11時間以上の保育を受けられることとなります。これは本当に必要なことなのでしょう。今は多くの幼稚園が延長保育に取り組んでいますし、月に9日間在園児以外でも預かる一時預かりという制度もありますから、仕事をしていても十分に幼稚園に子どもを通わせることができます。保育園は自分で入園する子どもを選べません。自治体から委託された子どもを預かります。それは点数制で、子どもの家庭の状況により点数の高い子どもから入園できるようになっています。誰もかれもが保育園、というのではなく本当に保育を必要とする人が入園できる形を生み出せないのでしょうか。

待機児童問題のほんの入口の話を書きました。私は、大人の都合によるエキセントリックな主張が繰り返されるのを見聞きすると、つい「乳幼児の幸せって何だろう」ということを深く考えてしまいます。 一田中 善之 S57法・H22院ビー

กรุงเทพมหานคร อมรรัตนโกสินทร์ มหินทรายุธยา มหาดิลกภพ นพรัตนราชธานีบูรีรมย์ อุดมราชนิเวศน์มหาสถาน อมรพิมานอวตารสถิต สักกะทัตติยวิษณุกรรมประสิทธิ์



バンコク便り Vol.2

S62年卒、会報委員長を仰せつかっております徳澄です。

1年振りとなりますが、その後の「バンコク便り」をお伝えしたいと思います。

弊社(Brain Assist (Thailand))は、2014年の7月より現地タイ・バンコク入りして会社準備を始め、2015年初より本格的に営業を開始しました。正に異国での第二の創業となりました。営業を始めて約1年、少しずつ売上は立ってはいますが、なかなか思ったようなスピードは出ていません(苦笑)。

閉塞感のある日本から見ると、昇竜の勢いがあるように思われているアジアですが、何もかも違う異国で簡単には稼げませんし、実は(未だ)そんなに大きなマーケットではないのです。おまけに、実は今、日本より景気は悪いかも知れない。そういった机上では知りえなかった情報を肌で感じながら、五感をフル活用して正にサバイバルしているここ1年です(笑)。

小職は、日本でも小さいながら会社運営しており

すので、タイ・バンコクに完全駐在では無く、日本との往復生活をしております。好きで来た国タイですが、生活者として見えるものは、観光者として見ていたものとは当然のことながら大きく違います。

何よりもまず最初に伝えたいのが、“日本人、日本、そこから作りだされるJapanQualityが如何にスペシャルなものなのか”ですね。日本国内にいと、今の若者はとか、昔はとか、劣化を嘆くような言葉もチラホラ聞かれますが、50年かかってもバンコクでそれを実現することは無理でしょう。そのマインド、メンタリティ、メソッド、ノウハウを、確実に次の代にバトンを渡していくこと、またアジアの仲間はその範を垂れること、が日本の役割だなあ、と常夏のバンコクでダラーッとビールを飲みながら想う今日この頃です(笑)。

2016年3月18日 帰任される大沢さん、井形さんの送別会

大沢さんは、在タイ6年で長い滞在でしたが、井形さんは私とほぼ同じで、1年半。



人の入れ替わりが結構ありますので、顔馴染になったかなあと思うと帰任となり、そこが寂しいところですね。この経済と一緒に、本当に新陳代謝が活発です。

この日は、校友会副会長の福原さん(タイで工場運営)、立教経営学部3年から、チュラロンコン大学(タイの東大)に短期留学している、木戸君も参加してくれて、賑やかな送別会となりました。

また、福原さん、井形さんとも応援団団長上がりということで、異国で懐かしい立教エールの応酬でした(笑)。

一徳澄 範光 S62数一



กรุงเทพมหานคร อมรรัตนโกสินทร์ มหินทรายุธยา มหาดิลกภพ นพรัตนราชธานีบูรีรมย์ อุดมราชนิเวศน์มหาสถาน อมรพิมานอวตารสถิต สักกะทัตติยวิษณุกรรมประสิทธิ์

ウェルカムナイト

日時 2015年11月11日(水)

19:00~21:00

場所 東京アメリカンクラブ

「アメリカンバー&グリル」

2014年度の新入会員をお迎えし、経済人クラブを今後楽しんで頂くためのウェルカムパーティ。大変な盛会となりました。



第68回立教経済人クラブゴルフ会



12月12日土曜日、第68回立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。今回は東千葉カントリークラブです。ドッグレグが多く距離もありますし、池が効果的に配置されており、ミドルホールでティーショットにドライバーを使えないホールやグリーン手前に外すと転がって入ってしまう等、落とし所が難しい設計です。またグリーンもアンジュレーションがありパットも楽ではありません。なかなか攻めがいのあるコースです。コースはタフですが、お天気には恵まれ、この時期にしてはと

ても過ごしやすくホッとしました。

和田会長にご挨拶を頂き、いよいよパーティーの始まりです。優勝は49、40の89、ネット73でまわりました長倉でした(-_-;)申し訳ありませんm(_ _)m 和田会長より優勝カップを頂きました。準優勝は48、45の93、ネット75でまわりました田中 啓允氏(S40年卒)でした。準優勝カップが和田会長より授与されました。

今回は初参加の方が3名いらっしゃいました。大山 浩一氏、古谷 紀行氏、橋本 美加氏から一言ご挨拶を頂き、和やかな楽しいパーティーですが、外はすっかり暗く

なってきました。

上原 洋一副会長に締めのご挨拶を頂き、最後に恒例の記念撮影となりました。

立教経済人クラブ、2015年最後のイベントでした。来年も様々な楽しいイベントを企画して参りますので皆様、奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。特に12月のゴルフ会にご参加少なめですので宜しくお願い致します(^_^;)v
—長倉 一裕 S59法—



世界最古の ビックデータ 易

2016年2月16日(火)新たな取り組みとして、年代の離れた会員同士の交流を図るというテーマの基「世代を超えた勉強会」が立ち上がりました。

記念すべき第一回である今回は、「世界最古のビックデータ 易」～人生航路を易で渡る～というテーマで、全員が「開運」の年明けとなりますよう、運命学の大家である池田光先生から、自分でできる開運法から社会運まで色々なお話をお聞きました。参加者全員真剣な面持ちで熱心に講義を受け、呉先輩のお店「新橋亭」の美味しいお料理やお酒をいただきながら世代を超えて懇親を深めました。

—昆 凡子 S54仏—



グルメ会

2016年3月16日(水)に立教経済人クラブ春のグルメ会が開催されました。今回は、隠れ家的雰囲気のお店「赤坂 ヴァッカロッサ」での開催です。「トスカナ地方の薪を使った暖炉で焼かれたお料理(骨付きステーキ等)をいただく」をテーマに、本日のために特別に用意された“厳選”国産赤身牛のビステッカコースを、和田会長をはじめとした23名の参加者で、貸切の店内でにぎやかにいただきました。

前菜は、アサリと色々山菜のバニャートに始まり、ロワール産ホワイトアスパラガスのみもザソースには、トリュフが添えてありとてもおいしくいただきました。続いてパスタ。

手打ちタリアレッテ 高知県須崎漁港直送の鯖のラグーソース、春野菜のリゾットをいただいた後、いよいよメインディッシュです。薪を使った暖炉で焼かれた、北海道十勝産若牛の骨付きロース肉のビステッカ



が登場すると、参加者総立ちで大興奮。香ばしいお肉に大満足でした。最後にデザートに色々ベリーのスッパイングレーゼとカフェをいただき、優雅な時間を過ごしました。

—品川 高穂 H8済—

新しく会員になられた方々

(敬称略)

今田 光保 平成1営
 (株)今田工業
 代表取締役
 〒171-0022 豊島区南池袋2-32-1
 TEL:03-3986-3311
 FAX:03-3986-3318
 建設業・不動産

柏木 秀太 平成4経
 柏木工機(株)
 専務取締役
 〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町6-14
 TEL:03-3661-1241
 FAX:03-3662-6057
 E-Mail:skashiwagi@kashiwagikouki.com
 機械工具卸

加藤 英樹 昭和63経
 カリモク家具(株)
 取締役社長
 〒470-2191 愛知県知多郡東浦町大字
 藤江子皆栄町108番地
 TEL:0562-83-1111
 FAX:0562-83-6699
 E-Mail:hideki-katoh@karimoku.co.jp
 家具製造業

菅沼 賢 平成8経
 J-STAR(株)
 プリンシパル
 〒100-0006 千代田区有楽町1丁目12-1
 新有楽町ビル2階
 TEL:03-6269-9713
 FAX:03-6269-9710
 E-Mail:ssuganuma@j-star.co.jp
 プライベートエクイティ(バイアウト)ファンド

中村 仁 平成4社
 (株)トレタ
 代表取締役
 〒141-0031 品川区西五反田7-22-17
 TOCビル8F
 TEL:03-6431-9006
 FAX:03-6431-9008
 E-Mail:hitoshi@toreta.in
 飲食店向け予約/顧客台帳サービスの開発・販売

永井 孝昌 昭和60営
 (有)芳永
 代表取締役
 〒335-0023 埼玉県戸田市本町2-4-18
 TEL:048-432-4259
 FAX:048-432-4259
 E-Mail:yu-houei@amber.plala.or.jp
 不動産管理

柳内 崇 平成3社
 (株)新栄堂書店
 代表取締役
 〒171-0022 豊島区南池袋2-47-2
 TEL:03-3984-2345
 FAX:03-3984-2349
 E-Mail:takashi.yanai@nifty.ne.jp
 書店



2016年度 事業計画書				
2016年 5月 26日	第36回定期総会	日比谷松本楼	(募集)	
2016年 6月 8日	ウェルカムナイト	場所未定	(募集)	
2016年 7月	第69回ゴルフ会	場所未定	(募集)	
2016年 8月	経済学部インターンシップ支援	場所未定	(募集)	
2016年 9月 14日	女子会	場所未定	(募集)	
2016年 9月	他団体交流ゴルフ	場所未定	(募集)	
2016年 9月 28日	グルメ会	場所未定	(募集)	
2016年 10月	朝食勉強会	場所未定	(募集)	
2016年 11月 15日	ウェルカムナイト	場所未定	(募集)	
2016年 12月	クリスマスパーティー	場所未定	(募集)	
2016年 12月	第70回ゴルフ会	場所未定	(募集)	
2017年 2月	新春名刺交換会	日比谷松本楼	(募集)	
2017年 3月 21日	世代を超えた勉強会	場所未定	(募集)	
2017年 3月	朝食勉強会	場所未定	(募集)	
2017年 3月 15日	グルメ会	場所未定	(募集)	

運営委員会に参加しませんか？

経済人クラブの運営を手助けしてくれる有志を求めています。毎月1回の運営委員会に参加して頂き(本業優先で結構)、自分の役割を片手間にこなして頂くだけです。特

別な資格、スキルは一切要りません。本業に影響が出るようなこともありません。必要なのは、経済人クラブの仲間と交流したいと思う気持ちだけかな!? 打合せ終了後の飲み会が楽しみかも？



編集後記

「五代様ロス」。

NHK朝の連続ドラマ「あさが来た」の登場人物で明治時代の実業家、五代友厚が最期を迎えると、全国の女性から悲鳴と嘆願が殺到したそうです。明治の世を駆け抜けていった実業家として、またヒロイン白岡あさの師として活躍した五代友厚の魅力もさることながら、五代役を演じた俳優のディーン・フジオカ氏が魅力的でなかったら「五代様ロス」は生まれなかったでしょう。

ディーン氏は福島県で生まれ、高校卒業後に米国へ留学。卒業後は同時多発テロの影響でビザ取得ができず、アジアに目を向け香港でモデルデビュー。台湾やインドネシアで活動後、日本の芸能界に進出、さらにアメリカのドラマにも出演したのち、朝ドラへの出演となりました。

このように、ディーン氏には行動力と機動力、さらには柔軟性と着眼点の素晴らしさがあります。一方で新たな場所やリスクを楽しむ勇氣、自分の信じた道を行く信念も持ち合わせているようです。

何よりも各国を渡り歩きながら、その場所やその瞬間を楽しむ姿こそ「失いたくない存在」になる秘訣なのかもしれません。

演技という枠を超えて多くの人を魅了する骨太の男。魅力のある人物から学ぶことはたくさんありそうです。 —吉原 伸隆 H4営—

立教経済人クラブ ウェブサイト
<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。



Facebook で、立教経済人クラブのグループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿してください。